

## 4 透析業務支援の作成

～市販データベースソフトを利用して～

波田総合病院 腎・透析センター

○丸山 恵一 深沢 房江 藤牧 久芳 赤穂 伸二 吉澤 晋一

### 【はじめに】

現在、医療現場へのコンピュータ導入により、医療情報を電子化し活用することによりさまざまな成果を生んでいる。今回、我々は市販データベースソフトを用い透析業務支援データベースを構築・業務に導入し、患者情報の共有化・業務の効率化・安全性の向上が図れたのでここに報告する。

### 【目的】

患者情報の共有化・業務の効率化・安全性の向上を目的に構築し、対象とした業務は患者情報管理・透析記録用紙・抗凝固剤作成業務に活用した。データベース導入前の患者情報管理は紙媒体の各患者ファイルで管理し分散化しており、患者情報を確認するにもファイルを探し出す必要があった。透析記録用紙の準備については印刷業者に委託した用紙を使い前回の記録用紙を参照し、該当患者の氏名・透析条件等を書き写し事前に用意していた。そのため転記ミスもありドライウエイトの誤転記による除水計算ミスもあった。

又、抗凝固剤作成は各患者の抗凝固剤調整条件を記載した表を基に調整し、シリンジには氏名のみマジックインクで記載していた。これらの業務は患者数増加により煩雑になりやすく改善の必要性があった。

### 【方法】

データベースはクラリス社データベースソフト『ファイルメーカー Pro5.0』を用い平成15年度より業務に導入し、翌年院内に電子カルテシステムが導入したが本機能は含まれなかったため継続使用し機能拡張・見直しを行い現在に至っている。図1は本データベースのメインメニューである。セキュリティ対策としてパスワード照合後、閲覧・編集が可能となり、画面上のボタンをクリックする事により各機能に進めるようになっている。

※ 別刷請求先：丸山 恵一 〒399-1401

長野県東筑摩郡波田町 波田総合病院 腎・透析センター

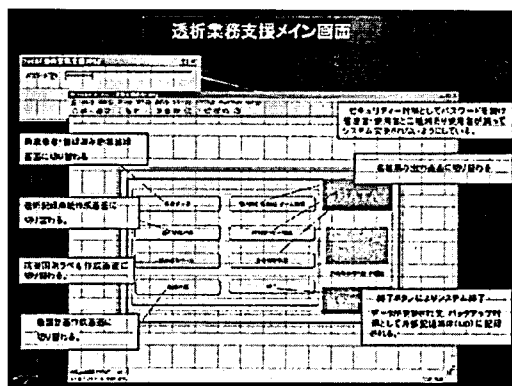


図1

図2は患者情報入力画面で登録・編集は看護師が行っており誤入力防止として入力後は看護師2人での確認をしている。

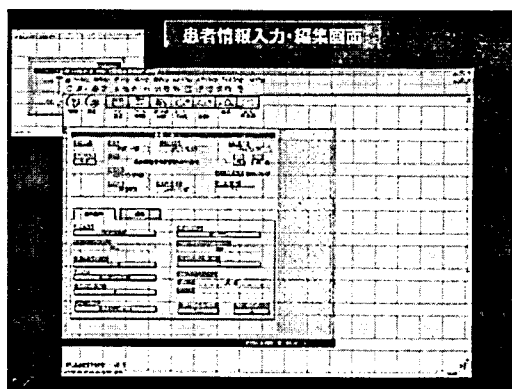


図2

入力項目は患者氏名等のプロフィール・透析条件等がある。データ登録は自動入力機能やプルダウンメニューを多くし、クリックで簡単に登録出来るようにした。それによりパソコン操作に不慣れたスタッフも問題なく使用できた。

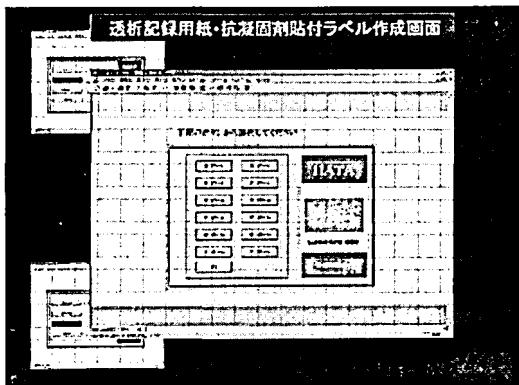


図 3

図 3 は透析記録用紙作成・抗凝固剤用作成時に使用する貼付ラベルを印刷する画面で透析の曜日・クール別のボタンをクリックすることにより該当者の透析記録用紙・抗凝固剤貼付ラベルが一括印刷される。

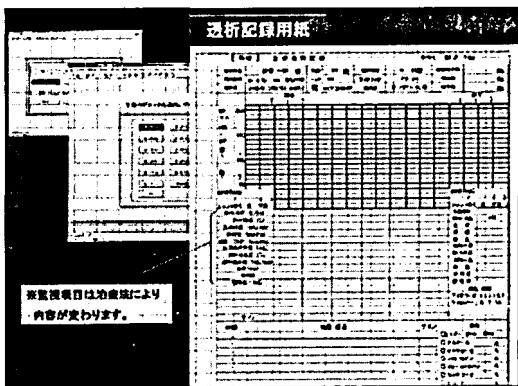


図 4

図 4 は印刷された透析記録用紙で以前は手書き転記していた透析条件全 10 項目が自動転記されている。

図 5 は印刷された抗凝固剤貼付ラベルと抗凝固剤シリンジで貼付ラベルには抗凝固剤の種類、抗凝固剤量・希釈液量が印字される。

抗凝固剤作成者はこれをシリンジに貼付し、内容を確認しながらの調整となった。又、調整前には安全対策として電子カルテ内の医師オーダとの照合を義務づけている。しかしこの業務は、医師入力が反映される電子カルテシステムの運用による当院薬局での調整が妥当と考え、薬剤師の協力も得て来年度より移行する予定である。その他、看護問題リストから対象問題をクリックすることに

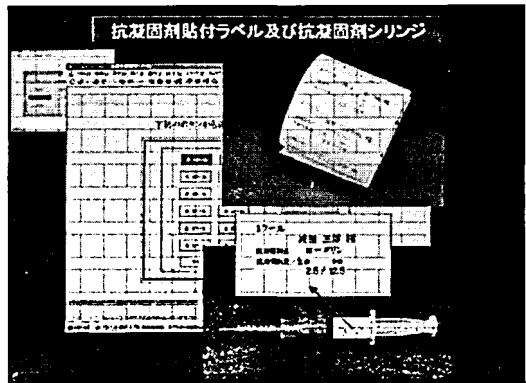


図 5

より看護計画が立案できる機能や患者データを基に各種一覧表も印刷されるようにし業務に活用している。

【結果】

- ①患者情報が一括管理され閲覧・編集が容易になった。
- ②透析記録用紙・抗凝固剤作成業務の手順が簡便化し労力が軽減した。
- ③透析記録用紙の準備にかかる時間が患者数 20 名に対して約 30 分間の短縮となった。
- ④透析記録用紙の手書きによる転記作業がなくなりそれに基づくミスが無くなった。
- ⑤抗凝固剤シリンジにラベルを貼付することにより調整後も内容の確認が可能となった。

【考察】

データベース導入により、患者情報が一括管理され情報が共有化された。透析記録用紙・抗凝固剤作成については手順が簡便化されたことにより、作業時間の短縮・労力が軽減し業務が効率化され又、手書きによる転記が無くなり安全性も向上したと思われる。

【結語】

今回、市販データベースを用い独自でデータベースを構築することにより当院に合ったデータベースが作成できた。又、業務に導入した結果、業務の効率化・安全性の向上が図られた。

今後は機能の見直し及び機能拡張を行い、看護業務に役立てていきたい。